

みんぱくリポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology Academic Information Repository

あいさつ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-04-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009559

あいさつ

国立民族学博物館（みんぱく）は、文化人類学・民族学とその関連分野の大学共同利用機関として1974（昭和49）年に創設され、1977（昭和52）年に大阪・千里の70年万博跡地に開館しました。2017（平成29）年に開館40周年を迎え、同年11月8日に開館40周年記念式典を催しました。

みんぱくには現在専任教員が50名おります。それぞれが世界各地でフィールドワークに従事しており、文化人類学の分野の教育研究機関としては、世界全域をカバーする研究者の陣容と研究組織をもつという点で、みんぱくは世界で唯一の存在といえます。

一方で、みんぱくがこれまでに収集してきた標本資料、モノの資料は、現在、34万3千点。これは、20世紀後半以降に築かれた民族誌資料のコレクションとしては世界最大のものです。また、博物館施設の規模の上で、民博は、世界最大の民族学博物館となっています。

人類の文明は、今、数百年來の大きな転換点を迎えているように思います。これまでの、中心とされてきた側が周縁と規定されてきた側を一方的にまなざし、支配するという力関係が変質し、従来、それぞれ中心、周縁とされてきた人間集団の間に、創造的なものも破壊的なものも含めて、双方向的な接触と交流・交錯が至る所で起こるようになってきています。それだけに、異なる文化を尊重しつつ、言語や文化の違いを超えてともに生きる世界の構築をめざす文化人類学の知が、これまでになく求められているように思われます。

みんぱくでは、こうした世界の変化を受けて、10年の年月を費やし、本館における世界諸地域の文化に関する常設展示の全面的な改修を進めてまいりました。その作業は、2017（平成29）年3月で一応の完了をみました。同年4月からは、研究部の体制も全面的に改め、時代の要請に応じた新たな組織で研究活動を推進することにいたしました。研究部は、「人類基礎理論研究部」「超域フィールド科学研究所」「人類文明誌研究部」「グローバル現象研究部」、そして「学術資源研究開発センター」から構成されます。いずれも、国内外の大学や研究機関、さらには研究や資料収集の直接の対象となった社会の人びと、すなわちソース・コミュニティの人びとと連携し、国際的なネットワークを通じた協働のもとで研究活動を展開していくことになります。

みんぱくでは、現在、館を挙げて、特別研究「現代文明と人類の未来」という国際共同研究を推進しています。このプロジェクトは、人類の抱える課題を分野を超えて多角的に検証し、未来への指針を探ろうというもので、年次進行で計8年をかけて実施しております。

みんぱくでは、また、目下、「フォーラム型情報ミュージアム」というプロジェクトを推進しています。これは、民博の所蔵する標本資料や映像音響資料について、資料を現地に持参したり、現地から民博に来ていただいたりして、関連情報を現地の人びととともに充実させて共有し、そのデータベースを国際共同研究に生かすとともに、人びとの記憶の集合体として、将来に継承していくというものです。

『研究年報』は、みんぱくの教員が実践する研究調査から、国際研究集会・学術交流、大学院教育、社会貢献にいたる多方面の活動とその成果についてみなさまに知っていただくために編集されました。大学共同利用機関としてのみんぱくの一年間の活動を集約してお伝えするものです。

この『研究年報』は、これまで、冊子体で刊行し、みんぱくリポジトリから閲覧できるかたちで提供をして参りましたが、情報環境の変化に合わせ、より多くの皆さまのお手元に直接情報を届けできるよう、このたび、全面的なオンライン化を図ることといたしました。

みんぱくのウェブサイトには、本誌の情報にくわえ、研究活動、研究集会や展示を含め、種々の館内外のイベントの最新情報を隨時掲載し、『研究年報』の内容を補完しています。

本誌を通じ、みんぱくの活動をご理解いただき、今後とも、本館に対して、みなさまからのご指導とご支援をいただけますことを念願しております。

2018年3月
国立民族学博物館長
吉田 憲司

